

群馬 教 育	G09 - 02
	平27.257集
	英語 - 中

伝えたい情報を正しい英文で 書くことができる生徒の育成

— 『音声→視覚→表現』の学習ステップに
モデル文の活用を取り入れて—

特別研修員 中山 仁

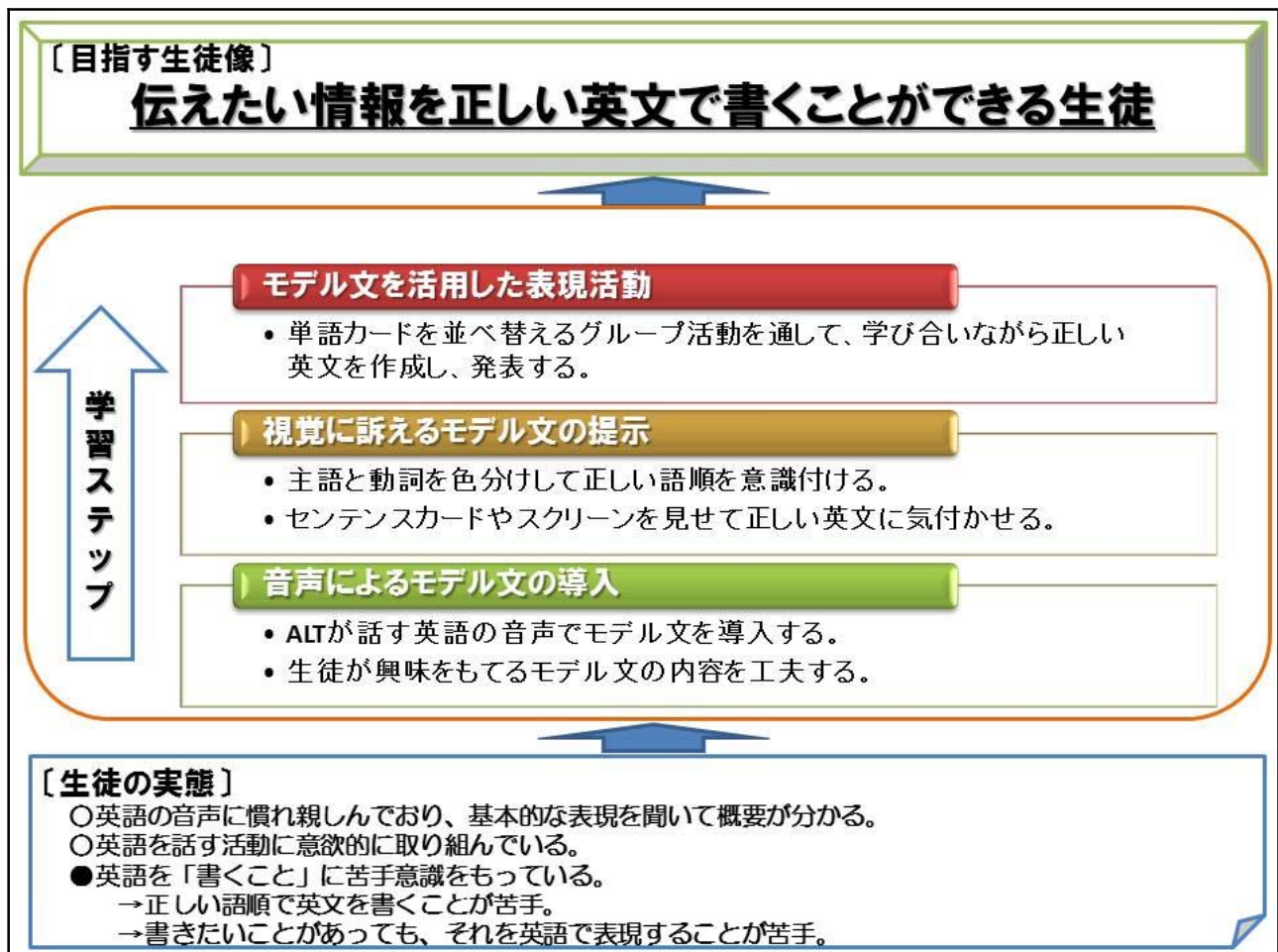
I 研究テーマ設定の理由

「はばたく群馬の指導プラン」では、「まとまりのある文を正しい英語で書くこと」が外国語の課題の1つとして挙げられており、解決に向けて伸ばしたい資質・能力の1つとして「正しい語順で英文を書くことができる」が挙げられている。生徒は小学校外国語活動を通して英語に多く触れ、英語を「聞くこと」や「話すこと」に慣れ親しんでいる。一方、本校生徒の実態を分析すると、英語を「書くこと」を苦手としている生徒が多く、「正しい英語を書くこと」が本校の課題である。

そこで、まず音声で英文を導入して内容を理解させる。次にその英文を文字で提示する際に、英文を構成する主語と動詞の関係を色分けして視覚的に生徒に意識させることで、正しい英語の語順を理解することができる考えた。また色分けカードを用いた英文作成活動を通して正しい語順を認識させ、それをモデル文として生徒に提示することで、生徒が自信をもって伝えたい情報を正しい英文で書くことができるようになったと考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 「音声→視覚→表現」を意識した学習ステップの確立

①音声によるモデル文の導入

モデル文となる英文を音声により導入する。ALTが英文を繰り返し言ったり、内容を把握するために必要な写真などを提示したりして、生徒が英語を聞いて理解しようとする意欲を持たせる。

②視覚に訴えるモデル文の提示

音声により導入されたモデル文を文字で提示する際、英語の語順を意識させるために、英文の主語を緑、動詞を赤で色分けして示す。主語や動詞の単語を変えられるセンテンスカードの英文を生徒に見せて印象付けたり、パワーポイントを用いて色分けした英文をスクリーンで確認させたりすることで、英語の正しい語順を認識させる。

③モデル文を活用した表現活動

色分けした単語カードを並べ替えて英文を作る活動を行う。グループ活動にすることで英語が得意でない生徒にも取り組みやすくさせるとともに、色分けを生かして英文を作らせることで、主語と動詞を意識した正しい語順の英文を書けるようにさせる。

(2) モデル文を活用させる工夫

自分で英文を書く際に、色分けを参考にしたり、英文の内容を参考にしたりできるよう、音声による導入で示したモデル文をスクリーンに映したり、グループ活動で作成した英文を黒板に掲示したりする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- ALTの音声による導入を行ったことで、生徒が興味をもって英語を聞いたり、ALTが話している内容を理解しようとしている姿が見られた。
- 英文を文字で見せる場面で、主語と動詞を色分けしたり、示した英文が正しいかどうかをALTに確認する作業を取り入れたことで、生徒は正しい語順を意識して英文を書くことができた。
- 色分けカードを用いたことで、同じ色のカードを並べて英文を組み立てるなど、うまく利用して英文を作ることができた。
- 音声で導入された英文や、グループ活動で作った英文をモデル文としてスクリーンや黒板に提示したことで、そのモデルを活用しながら自分が伝えたい内容を書くことができた。

2 課題

- 音声から英文の導入は、生徒が興味・関心をもって英文を聞き内容を考えることができるが、難易度を考えて英文を作る必要がある。生徒の興味・関心を引き、生徒にとって容易過ぎず、かつ難解過ぎない英文の導入を工夫していく。
- 英文の根幹である主語と動詞に着目して色分けしたが、それ以外の扱いが不十分であった。フレーズに着目させるなど、主語と動詞以外の部分をどのように示していくかを検討し工夫していく。
- 伝えたい情報の内容をより深めるために、モデル文として示す英文の内容をさらに充実させるとともに、よく使われる表現を織り交ぜながら、英文に触れさせていく。
- モデル文の内容を理解したり、カードを並べ替えて英文を作ったりすることに時間を多く割いてしまい、英文を書くための十分な時間を与えることができなかった。単元の指導計画を改善したり、1単位時間内の活動内容を精選したりする必要がある。
- 今後はモデル文がなくても英文を書くことができるようになるために、語彙を増やしたり、文法事項を確実に理解できるようにしたりする工夫が必要である。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 「Unit2 みんな友達」(第1学年・1学期)

2 本単元(題材)及び本時について

本単元は、カナダからやってきた転入生のベッキーに対して、さくらと一郎が校舎内外を案内する場面である。This / That is ~. を用いて問答したり、会話の中に初めて第三者(三人称)であるケビンが登場し、He / She is ~. を用いて他者を紹介する場面も設定されている。

本単元で初めてbe動詞isを学び、be動詞の現在形(am, are, is)を全て学習する。またHe, Sheを学ぶことで第三者の紹介をすることができるようになる。そこで本単元ではbe動詞を用いた英文を使って自分の身近な人について紹介することをまとめた学習課題とし、本時ではそのための紹介文を英語で書く活動を設定した。

3 授業の実際

<本時のねらい> be動詞isを用いて身近な人の紹介文を書こう。

(1)「身近な人の紹介文」を書くために

①音声によるモデル文の導入

生徒が書く紹介文のモデルとなる英文を音声で導入した。何度か繰り返し聞かせることによって、生徒は徐々にその内容が分かり、より興味をもって英文を聞いたり、分かった内容について発表したりした。

②視覚に訴えるモデル文の提示

音声で導入したモデル文をスクリーンに映して1文ずつ確認した。その際、正しい英語の語順を意識付けるため、主語を緑、be動詞を赤に色分けして英文を作成し、生徒に提示した(図1)。また、最後には全ての文をスクリーンに映して、特に主語を緑、動詞を赤に色分けし、主語と動詞の関係が色分けによって分かるように工夫した(図2)。



図1 モデル文の色分け提示

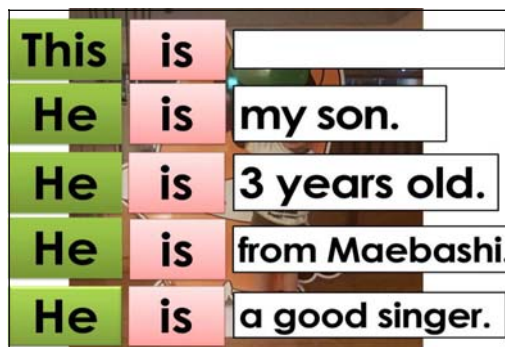


図2 色分けしたモデル文

③モデル文を活用した表現活動

[学習課題]

- ・グループで学び合いながら単語カードを並べ替えて正しい英文を作り、発表しよう。

グループごとに有名人のことを表した内容の英文を単語カードにして、カードを並べ替えて英文を作る活動を行った。生徒はカードを並べ替えながら、色分けされたカードを利用して、主語と動詞の関係をつかんでいた(4頁図3)。できた英文を黒板に貼り、グループの代表者1人に発表させて、「有名人当てクイズ」を行った(4頁図4)。クイズにすることで生徒は代表者の英文を真剣に聞くことができた。



図3 英文を作るグループ活動



図4 できた英文の発表

(2) モデル文を活用させる工夫

[学習課題]

- ・様々なモデル文を参考にしながら、身近な人を紹介する英文を書く。

導入で用いた英文やグループ活動で作った英文をスクリーンや黒板に残し、それを参考にしながら英文を書く活動を行った。生徒は与えられたヒントを参考にしながら英文をしっかりと書くことができた。

4 考察

- モデル文の導入の場面では、生徒がその内容を理解することができた。モデル文を英語の音声で導入したことが、興味をもって英文を聞いて、内容を理解することにつながったと考える。しかし、音声による導入の後すぐに文字を見せると、生徒が音声だけでどの程度理解できたかを見取れなかったため、ヒントとなる映像を見せたり、音声を聞かせた後でQ&Aを行ったりして、音声による導入をより大切に扱っていく必要がある。
- 英文を書く際に、主語と動詞の関係をきちんと書くことができている生徒が多かった。モデル文をスクリーンで示し、文構造を理解させる際の生徒とのやり取りの中で、
T「共通することは何？」
S「文の最初が緑になっている。」
などの発言を引き出すことができた。色分けをして示したことが有効であったと考える。
- 英文を書く場面で、生徒はスムーズに英文を書くことができていた。モデル文を活用するとともに、ワークシートに書く内容をあらかじめ記載しておいたことが有効だったと考える。(図5)。今後は、自由に英文が書けるワークシートを工夫するとともに、多くの情報の中から「これを伝えたい」というものを選んで書けるように指導していく。

身近な人の紹介文を作ろう!

Class() No.() Name()

<目標> Unit1,2で学習した表現を用いて、身近な人を紹介する英文を正しく書く!

☆留意点☆
「こちらは～です。」の表現は This is。
男性を指す場合は He。女性を指す場合は She。
英文を書くときのルールを確認しましょう。

こんな内容で
・紹介する人の名前、関係(親、兄弟、友達など)、年齢、出身地、職業、所属など

こちらは _____ です。 (フルネームで紹介する人の名前を言う。)

This is _____

彼(彼女)は 弟 です。(my father/mother/brother/sister/friendなど)

He is my brother.

彼(彼女)は 伊勢崎 出身です。(出身地を紹介する。)

He is from Iesak.

彼(彼女)は 9 歳です。(年齢を紹介する)

He is 9 years old.

彼(彼女)は 三柱/アスリート です。(職業や所属(クラス、部活)など)

He is a member of the Mihashira Fight

彼(彼女)は とても野球の下手 (得意なスポーツなどあれば…)

He is a very very good baseball player.

聞いてくれた人に感謝を込めて
Thank you!!

図5 生徒が仕上げた紹介文

実践2

1 単元名 「Unit6 ベッキーのおばあちゃん」

2 本単元（題材）及び本時について

本題材は、ベッキーがアメリカに住む祖母のナンシーをクラスの友だちや先生に紹介する場面である。また、先生からナンシーについての質問を受け、それに答える場面も設定されている。本単元の学習を通して一般動詞を用いた三人称の表現を使うことができるようになり、コミュニケーションの幅が大きく広がる。

本単元で扱う新出文法事項は、一般動詞の三人称単数現在形（以下、「三単現」と示す）である。一般動詞に付けるs（三単現のs）やdoes / doesn'tを用いた疑問文や否定文を学習する。そこで、本単元では「友達当てクイズを作ろう」という学習課題を設定した。また本時では、一般動詞を用いた文を使ってクイズとなる英文を書く活動を設定した。

3 授業の実際

＜本時のねらい＞ 友だち当てクイズとなる英文を書こう。

(1) 「友達当てクイズとなる英文」を書くために

①音声によるモデル文の導入

生徒が書くクイズ文のモデルとなる英文を、「ALTからのクイズ」という形で音声で導入した。生徒にとって理解しやすく、既習表現を用いて生徒の参考となる英文を考えた。また「ALTからのクイズ」にすることで、生徒がこの後の活動をイメージでき、また興味を持って内容を考えることができた。

②視覚に訴えるモデル文の提示

音声から導入したモデル文をスクリーンに映した。その際、正しい英語の語順を意識付けるため、主語を緑、動詞を赤、三単現のsを青に色分けして英文を作成し、生徒に提示した。また英文の誤りに気付かせ、正しい英文を印象付けるため、スライドを使って視覚に訴えるように工夫した（図6）。

He have a pocket.
He like Dorayaki.
He don't like a mouse.
He live in Nobita's house.

He has a pocket.
He likes Dorayaki.
He doesn't like a mouse.
He lives in Nobita's house.

まず左の英文を示し、生徒に考えさせたのち、ALTのチェックを受けて右の英文を示した。

図6 生徒に提示したモデル文：（左）誤りのある文 （右）正しい文

③モデル文を活用した表現活動

[学習課題]

- ・グループで学び合いながら単語カードを並べ替えて正しい英文を作り、1人1文発表しよう。

「友達当てクイズ」の英文を書く前の表現活動として、「1年の先生当てクイズを作ろう」というグループ活動を行った。教師は「1年の先生当てクイズ」の英文を単語カードにして用意した。グループ毎にそのカードを並べ替えて英文を作った。カードはあらかじめ色分けしておき、生徒が英文を作るときに参考にできるようにした。生徒は主語と動詞の関係、さらに三単現のsを意識して英文を作っていた（6頁図7）。できた英文は黒板に貼り、グループ全員に1人1文ずつ発表させて、ク

イズ大会を行った（図8）。生徒は、クラスメイトが話す英語に興味をもって聞き、クイズの答えを考えていた。

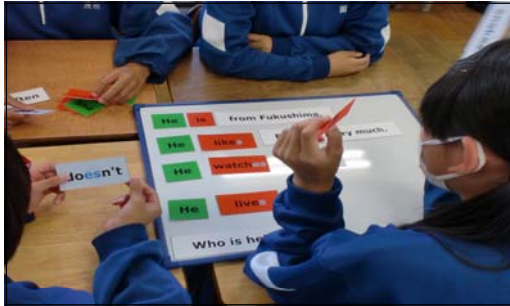


図7 色分けカードを用いたグループ活動



図8 1年の先生当てクイズ

(2) モデル文を活用させる工夫

[学習課題]

- ・様々なモデル文を参考にしながら、友だち当てクイズの英文を一般動詞を用いて書こう。

導入で用いたALTのクイズ文やグループ活動で作った1年の先生当てクイズの英文をスクリーンや黒板に残し、それらを参考にしながら英文を書く活動を行った（図9）。生徒は、プリントや黒板など、与えられたヒントを参考にしながら英文をしっかりと書くことができた。また、グループ内で自分が知らない表現を友達に聞いたり、ALTに質問したりしながら、英文を書くことができた。



図9 モデル文を参考に書く活動

4 考察

- ALTによるモデル文の内容をクラス全員が理解することができた。英文の内容が誰にでも分かりやすく、生徒の興味をひくものにしたことで、慣れ親しんだ音声での導入が有効であったと考える。
- 視覚に訴えるために、スライドを使って瞬時的に英文を見せることで、生徒は三単現のsを意識し、正しい英文を書くことができた。色分けした英文や、瞬時的に見せる手立てが有効であったと考える。
- グループ活動でできた英文を1人1文発表させるようにしたことで、英文ができた後も緊張感をもって発表の練習に取り組み、自信をもって英文を言うことができた。
- 色分けしたセンテンスカードやカードを継続的に使用したことで、生徒が正しい語順を意識して英文を書くことができた。
- ワークシートを工夫し、生徒が伝えたいことを自由に書けるようにした結果、モデル文を参考にしながら英文を書くことができた（図10）。今後は、生徒が書く英文をより深めさせるために、生徒に提示するモデル文の内容をより充実させるとともに、よく使われる表現を織り交ぜながら、英文に触れさせていきたい。

Let's make a quiz about your friend !

class() No.() Name()

- 調査してきた情報をもとにして、友だち当てクイズを作ってみよう！
どんなふうに英文を考えたら面白いクイズになるかな？
もちろん、自分で知っていることを英文にしてもOK。
どんなクイズが完成するかな？

○友だち当てクイズ・・・正解は()くん・さん

She lives in Naganuma.

She has a piano.

She's a member of the brassband club.

She wants a sneaker.

She often watches "TUTTY Q."

She likes Osushi. But She doesn't like Medamayaki.

Her birthday is July thirtieth.

She's in class 1-4.

図10 生徒が作ったクイズ問題